

## 令和6年度第3回川崎市平和館運営委員会 会議録

- 1 開催日時 令和7年3月28日（金）午後3時30分から
- 2 開催場所 川崎市平和第1・2会議室
- 3 出席者 委員 堀会長、萩原副会長、大橋委員、杉浦委員、館委員  
稲垣委員、草嶋委員、相沢委員、高岸委員  
事務局 市民文化局 北村平和館長、調査員専門調査員、松井主任、鈴木職員、長沼人権・男女共同参画室長、羽田野人権・男女共同参画室担当課長、佐藤人権・男女共同参画室担当係長、地域包括ケア推進室松井主任
- 4 議題 (1) 令和7年度平和館事業計画（案）について  
(公開) (2) 【川崎市市政100周年記念事業】戦災写真のカラー化について  
(3) 令和6年度ミニ企画展（第2回）の実施状況について  
(4) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

堀会長 川崎市平和館運営委員会を開始します。議事に入る前に事務局から報告があります。

北村館長 本委員会につきましては川崎市平和館条例施行規則第16条の規定により「委員の過半数が出席しなければ開くことができない」とされております。現在、12名中9名の委員に御出席していただいておりますので本委員会が成立しておりますことを御報告いたします。次にこの会議ですが川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に定める会議公開の原則に基づいて公開とされております。傍聴の方がおいでの場合は、傍聴を認めますのでよろしくお願いします。

堀会長 それでは、議事に入ります。会議次第に沿って進めてまいりますので御協力をお願いします。議題1「令和7年度平和館事業計画（案）について」を事務局は説明してください。

北村館長 （資料に基づき「令和7年度平和館事業計画（案）」について説明）

調査員 （資料に基づき「令和7年度企画展及びミニ企画展」について説明）

堀会長 ただ今の説明について、御質問等ございましたらお願いします。

原副会長 特別展の戦後80年特別展の内容について質問します。「みる」、「さわる」、「やってみる」展示ということですが、「やってみる」というイメージが湧かないのですが、どのような展示を考えているのでしょうか。

北村館長 展示品に関するクイズですとか、来場者が参加できるようなもの展示に加えたいという意味で「やってみる」と表現しました。

調査員 例えば「触ってみる」の中に当館の所蔵品の中に焼夷弾から作った鍋釜があります。スーパーなどで販売されている鍋釜に比べて大幅に素材が軽い、そういった展示品に触れてみながら、触れた展示に関するクイズを来場者に

やってもらったりすることを考えていて、「やってみる」という書き方をしています。

北村館長 「例えば」と表現しているのは、所蔵品は、市民の財産なので、触れるとなると、壊れるとか、紛失するリスクもあるので、どういう形で触っていただく展示を実現するのか、検討させていただきたいという意味での書き方になっています。

杉浦委員 先ほど戦後80年特別展での川崎アゼリア地下街でのサテライト展示ですが、先ほどカラー化された戦災写真を見てきたのですが、戦時中の市役所の写真もあり、川崎区に住んでいるので懐かしいと思いました。川崎区の住民を平和館に呼ぶPRとして、なじみのある市役所の写真を展示して、平和館にもこういう写真が展示してありますよと、PRするのが効果的で見に来ると思います。そういう風に工夫して、高津区の方には高津に関連した写真でPRするなど、来館者の増加につながると思います。いかがでしょうか。

北村館長 まず、7月に特別展のサテライト展示を川崎アゼリア地下街で行いますので、川崎区民も意識した展示にしたいと思っています。次に、巡回平和展という形で各区を回る特別展もございますので、展示先の区にちなんだ写真があれば極力それを展示して行きたいと思っています。

萩原副会長 来年度のミニ企画展（2回目）について伺います。子どもによる紙芝居づくりの取組ですがこれまでもされてきたのでしょうか。また、今年度のミニ企画展（2回目）の「絶戦教育プログラム」で連携した市内の中学校や高校ともまた連携することを考えているのですか。

調査員 まずこういった取組は初めてなので、すごく手探りの部分が多くあります。たとえば、まだ社会科の学習で近現代史までいっていない段階の中学1年生や2年生の生徒にどのような資料を用意できるのか、生徒たちの着想をどうストーリー化させられるのか、といったやり方も今回は手探りです。また、普段、こういった連携は、総合学習の授業の枠を使って行うことが多いのですが、総合学習以外のたとえば、国語ですとか、社会科、美術といった教科でも可能なのかという学校側との連携の仕方も手探りです。そして、最終的にはそれをどう作品化していくのか、すべてについて手探りの状態で行くことにはなります。どういう学校と連携して行くかについては、本当はすべての学校と連携できれば良いのですが、これは相手があることでもあるので、どうしても普段からお付き合いのあるところに声をかけて行ったり、向こうの方から相談に来たりですとか、平和学的な平和学習に興味を示した学校と一緒にやって行くことにはなります。まず授業の枠を5、6コマ使わないとできない連携もあるので、すべての学校が参加というわけにはいきません。

萩原副会長 すごく積極的な取組だと感心して伺いました。

堀会長 他に質問等がありますか、無いようであれば、議事2「戦災写真のカラー

化」について、議事3「令和6年度ミニ企画展（第2回）の実施状況」について、あわせて事務局から説明願います。

北村館長 （資料に基づき戦災写真のカラー化について説明）

調査員 （資料に基づき令和6年度ミニ企画展（第2回）の実施状況について説明）

堀会長 ただ今の説明について、御質問等ございましたらお願いします。

杉浦委員 カラー化した写真の資料の2枚目の真中に市役所が写っているが、その左の方のビルは昔の小美屋デパートでしょうか。

北村館長 そうです。

杉浦委員 うちはその隣にあって空襲で焼けました。その後疎開から帰ってきたら、敷地内に金隠しやらタイルやら小美屋デパートのものがたくさん埋まっていた。

北村館長 今回戦災写真のカラー化に当たって証言をしていただいた方も、稲毛神社周辺にお住いだった方で、空襲のあった後に自宅に戻ろうとしたが、自宅の場所が分からなかった。市役所が焼け残っていたので、そこを目標に戻って周辺を探したら機械の焼け残りなどがあって、自宅は多分この辺だろうと見当をつけて焼失を確認して横浜に疎開したと言われていました。空襲直後は被害がひどく自分の家に戻るのも大変な状況だったそうです。

大橋委員 カラー化された戦災写真を見ましたが、こういう写真を見ると、当時そこで生活していた人の心の動きが分かるのではないかと、子供たちが紙芝居をつくる際に、こういう写真を見ると参考にできるのではないかと思ったりもしました。

北村館長 白黒写真でもカラー化した写真と同じものが写っているのですが、カラー化することで、戦災を体験された方の見た光景が再現できて、よりリアルに戦争の被害を感じられると思います。雲の色などもAIで着色できるのですが、当時どういう雲の色でしたか、どういうふうに記憶に残っていますかと聴いて、証言で手直しした部分もあります。もしかしたら空も別の色だったかもしれないんですが、その方の記憶を解凍して、心象風景を再現した部分もあります。

堀会長 他に質問等がありますか、無いようであれば、議事4「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

北村館長 次回の運営委員会の日程ですが、6月または7月中に開催したいと思っています。詳細が決まり次第お知らせをします。

堀会長 本日予定されていた議事は、以上で終了になります。これをもちまして、平和館運営委員会を閉会いたします。